

所信

<はじめに>

1963年、希望と可能性に満ちた明るい豊かな地域にすることを夢み、56名の情熱と高い志をもった青年たちにより、海部津島青年会議所の前身となる津島青年会議所が産声を上げました。設立から半世紀余り、変わり続ける社会情勢のなか様々な運動を展開し、この海部津島地域をより良いものに変え続けていこうとした先輩諸兄の高い志を引継ぎ、我々は59年目の新たな挑戦をしていきます。

Society5.0という言葉が世の中に出て5年、社会は目まぐるしい勢いで変化、発展を続けています。インターネットなどの情報技術の発展は、ひと昔前とは比べものにならない程の情報量を蓄積し、端末一つで素早くありとあらゆる情報を誰でも手に入れられるようになったのは言うまでもなく、また、ロボットテクノロジーや人工知能の成長は日進月歩であり、人々のライフスタイル及びワークスタイルに大きく影響を及ぼす程に進化を遂げております。さらにはモノとインターネットをつなぐIoT (Internet of Things) に留まらず、人間の能力とインターネットをつなぐIoA (Internet of Abilities) というおよそ今までに無い概念も生み出されており、10年後はおろか、5年後の未来がどのように変化していくのかさえ想像ができない時代に突入しております。

人間の営みは、幸福になる、豊かになるという目的をもちつつもその終着点が無い旅と例えることができます。無論、先人たちもその旅路を艱難辛苦の上乗り越え、豊かな社会を次代へつないできました。我々青年世代はその功績に深い感謝の念を表し、今まさにそのバトンを引き継がなければならない立場にあります。しかしながら、未来を容易に想像できないこの時代を生きていくことは、それこそ人類が降り立ったこともない、数多に輝く星々に足を踏み入れる行為そのものと形容することができます。そこには空気があるのか、重力はどうか、気温はどうか、未知の生命体はいるのか、今までの常識が通用しない旅であると言えます。しかし、その先には今まで見たこともない、聞いたこともない発見が無限に待っていることでしょう。

我々はまだ見ぬ未来の子孫たちに明るい未来を切り開き、明るく豊かな社会をつないでいくために進んでいかなければなりません。無限の宇宙を旅する船団のリーダーとして、危険を顧みず人々の先駆者となりその行先の道標となるのは我々青年世代に他ならない。前人未到の未開の地の先にある一筋の光明に向かい、勇気と情熱をもって恐れず邁進していきましょう。

<先駆ける青年会議所であるために>

かつて海部津島青年会議所は100名以上の会員数を誇り、夏の太陽のようにエネルギーに満ち溢れ、様々な力強い運動発信を続けてまいりました。それは、先輩諸兄の地域における数多くの活躍と実績が表すとおりであります。しかしながら、かつての面影は鳴りを潜め、発信力の低下もさることながら、今や組織存続の窮地に陥っているのは誰の目から見ても明らかです。会員減少の流れは20年程前から始まっており、ここ数年でその勢いはさらに加速の一途をたどり、現在の会員数は最盛期の1/4程度にまで減少しております。また、在籍年数の低下にとともに、様々な役職を担うことで得られる経験を積むことなく青年会議所の要職を担うことが多くなり、会員数の多さが生み出す多様な個性と経験による力強いリーダーシップが融合して発揮される組織としての推進力が低下してきております。組織を構成するのは「人」であり、数と質が組織の力を大きく左右させるならば、この二点について増加向上を

両立していかなければなりません。

そのためには、まず会員拡大です。

幸いなことに、海部津島地域には1万3千余りもの事業所が存在し、まだ見ぬ同志が数多く眠っている可能性があります。しかしながら、事業所数の多さという利点も、候補者となりうる情報を的確に手に入れ活用することができなければその価値を活かすことはできません。今まで蓄積された情報を活用することはもちろん、常にアンテナを張り新たな情報を余すことなく収集していく必要性は想像するに易いことでしょう。その上で、迅速かつ計画的にアプローチをしていかなければ、会員拡大の成功はあり得ません。「善は急げ」です。確実な情報収集と迅速な行動、この両輪を確実に回し、会員拡大という列車を成功という終着駅に向けて走らせてまいりましょう。

そして、会員のリーダーとしての資質向上は必要不可欠です。

世の中は今、激動する時代の中にいます。その先行きは不透明かつ不確実であり、変化のスピードも急速に加速していく今、企業の存在理由、社会やコミュニティとの関わり方、組織と個人の関わり方など、今までの成功事例や常識だけでは通用しない、様々な面において創造と変革を必要とする時代に突入したといっても過言ではないでしょう。

そのような時代背景のなか、企業や自治体などの組織において、新しい社会、新しい国の在り方を描く、創造と変革に取り組むリーダーを待望する声は日増しに大きくなってきており、創成期から会員のリーダーシップを原動力に創造と変革に挑戦してきた青年会議所の役割は、今まで以上に重要なものとなりつつあります。

しかしながら、現在の青年会議所は会員数の減少により様々な役職を担いリーダーとしての経験を積み重ねてきた会員が多くありません。さらには、在籍年数の低下にともない、十分に経験を積めないまま組織の要職を担うことも多くなりました。とりわけ、在籍年数の短い会員が要職を担うことは、自らの力不足を感じる事が多く、「自分はリーダーの器ではない」という自信の喪失から「選ばれた人しかリーダーにはなれない」という幻想に陥り、リーダーシップそのものを自分とは縁遠いものと思い込んでしまっていると感じてなりません。さらにはその幻想が他の会員にも伝播し、青年会議所活動への積極性を低下させ青年会議所全体の活力を低下させるという悪循環に陥っているのではないのでしょうか。

本当にリーダーは限られた人間にしかなれないのでしょうか。いや、私は強く「違う」と断言したい。なぜなら、リーダーとして一番大切なことは、人や組織を巻き込み動かすことではなく、自らの意志によって自分自身を突き動かすことだからです。人や周りには関係ない、見えないものを見ようとする自分自身の歩みを進める意志の力こそリーダーシップの源なのであり、そのことを誤解なく理解し「リーダー＝選ばれた人」という幻想を打ち破ったとき、リーダーとしての自信が会員の心の中に力強く宿ると確信しています。

海部津島青年会議所は58年という長い間、明るい豊かな社会の実現のために豊かな発想と情熱により、地域に先進的な道筋を示してまいりました。そして今後も地域の先駆けとなる海部津島青年会議所でなければならないと確信しています。その使命を全うするためにも、志を同じくする仲間を増やし、そして、リーダーとしての自信と気概を奮い立たせ、信念のもと己を突き動かすJAYCEEへと成長してまいります。

<未来に輝く青少年の育成>

未来を生きていく子供たちへ。

我々の社会は今まさに転換期ともいえる激動の時代にあります。デジタル革命ともいえる第三次産業革命以降、進歩発展を遂げた情報技術を援用し、様々な技術開発が行われてきました。そのなかで、人工知能（AI）でブレークスルーがおき、様々な産業応用がなされたことにより、ロボット工学、ブロックチェーン、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、IoT、自動運転、仮想現実、拡張現実などの、多くの分野において、今までにない技術革新を特徴とする第四次産業革命の姿が見え始めてきております。そしてこれらの技術革新は、2030年代までに機械の自律性や柔軟性を極限までに高め、単純な処理作業だけではなく、簡単な判断を要する仕事までが高性能AIに奪われていく可能性が示唆されています。まさに人類は今まで足を踏み入れたことのない境地に進むこととなります。

このようなことから、AIは人間にとって脅威であり、いずれ人類を支配してしまうのではないかと途方もない不安を感じることもあるのではないのでしょうか。しかし、全ての面において人間よりもAIの方が優秀なのでしょうか。答えは「No」です。例えば、電車の運転士は自動化される可能性があります。車掌は替わらないとも言われています。それは最終の安全確認や車内で病人が発生したときなど、想定外の事態が起こったとき、AIでは柔軟な対処ができないからです。また、営業職で考えても、最適な商品やサービスを導き出すことはできるが、相手の心情を察し言葉遣いを変えるなど人の感情を前提としたコミュニケーションをすることはできません。さらに、保育や看護などの人対人の仕事では人間ならではの礼儀や思いやり、優しさといった感情は必要不可欠です。つまり、AIが発達すればするほど、単純作業は人間の手から離れ、人がもつ発想力や創造力、そしてコミュニケーションを活かした仕事に人は従事することになるのです。

そのような時代の流れのなかで、これからの未来を生きる子供たちに求められる資質は、正解のない問題を考える思考力と、人と人とのコミュニケーション能力、そして、礼儀や思いやりなどの人間としての徳であると考えます。計算の速さでも英単語や化学記号、歴史の年号を覚える暗記力でもありません。もちろん、それらの基礎学力や知識を向上させることが必要なくなったわけではありませんが、人が人として生きていくためのAIでは替えのきかない知恵と力がそれらに集約されていると考えるのです。

子供たちの将来について、不安材料を言い出せば枚挙に暇がなく、否応なしにも子供たちはこの不確かな未来を歩んでいかなければなりません。しかし、近い将来、必ず人間のもつ本来の力が必要とされる社会に変貌していくと確信しています。そのとき、子供たちが一人の人間として輝く人生を送れるよう、人が人であるための生きる力を育ててまいります。

<感謝と交流>

我々の活動は誰によって支えられているのか。

海部津島青年会議所はまちづくり事業をはじめ、地域に対する様々な活動や自己成長のための活動を58年という長きにわたり継続して行うことができました。それら様々な活動は、青年会議所メンバーが侃々諤々と議論を交わし、研鑽を積み重ねていく日々の努力の成果なのはもちろんですが、決してそれだけではありません。そこには行政を始めとする諸団体、企業の皆様、先輩諸兄、そして一番身近な存在である家族を始めとする、多くの人たちの支えがあり成り立っているのです。我々はそのことを心

に刻んでおかなければならないのです。60周年を目前にした今、我々の活動を不断のものとし、相互に協力し理解しあえる関係性を保っていくためにも、日ごろから我々の活動を支えてくれる方々への感謝を示し、さらなる親交を深めてまいります。

<おわりに>

青年会議所のやるべきことは何なのでしょう。郷土愛の醸成、青少年の育成、人材の育成、細かい事柄を上げればきりがありませんが、最終的な目的は「明るい豊かな社会の実現」でありそのための「市民の意識変革」であると考えます。つまり、人の心に訴えかけ、気持ちを揺り動かすことが必要不可欠であると考えます。では、人の心を揺り動かすのに大切なことは何か。それは過去の栄光や実績でもなければ、地位や役職といった権力でもありません。一人ひとりが心の内に秘める、まだ誰も見たことがない景色を見たいと思う、自分自身を強烈に突き動かす意志の強さと行動であります。その姿勢が結果として周りの人々の心を揺り動かし、さらにはその個人と周囲の共振現象が、社会をも動かす大きなうねりと発展し得るのです。常に「何のために行動するのか」という自問自答を繰り返し、己が突き進む答えを見つけ「自分を動かし」「人々を動かし」さらに「社会を動かす」大きな運動を巻き起こすために、常に先陣に立ち、恐れることなく新しい時代の先駆けとなるべく共に走り抜けてまいりましょう。

Look at me, follow me

～背中を示す明日への希望、未来へつなぐ先駆けとなれ～

基本方針

<先駆ける青年会議所であるために>

地域の先駆けとなる青年会議所となるために、全員拡大を推し進め志を同じくする仲間を増やし、一人ひとりがリーダーとしての自信と気概を奮い立たせ、信念のもと己を突き動かすJAYCEEに成長してまいります。

<未来に輝く青少年の育成>

先行き不透明な未来を、子供たちが一人の人間として輝く人生を送れるよう、AIやロボットでは代替えすることができない人が人であるための生きる力を育んでまいります。

<感謝と交流>

我々の活動を日々支えてくれる全ての方々に感謝の意を表すると共に、相互に協力し理解しあえる関係性を向上させるために親交を深めて参ります。